

特集

# 豊かなことばの学びを実現するために

# 酒井英樹(さかい・ひでき)

着実に英語を使用する力を育成するために、どのような力を育成するのか、またその力をどのように育成するのか、を考えて指導にあたりましょう。どのような力を育成するのかについては、小学校学習指導要領で明示されています。ここでは、どのように指導したら良いかという点に焦点を当てます。英語をたくさん聞かせること、自分のことばで表現させること、児童の世界を広げることを心がけてください。

小学校において教科としての外国語が始まりました。慣れ 親しませるだけではなく、着実に英語を使う力を高めていく ことが重要です。どのような英語力を育成するのかについて は、小学校学習指導要領に詳しく述べられています。ここでは、 どのように英語力を育成するのかに焦点を当てます。

小学校外国語教科書 CROWN Jr. では、小学校英語の実践者、第二言語習得・外国語教育の研究者、文字指導の専門家が集まり、どのような学習活動が必要なのか、どのように単元を構成すればよいのか、どのような教科書にしたら児童を惹きつけられるのか、また先生が使いやすいのかということを考えました。その CROWN Jr. の良さを最大限活かすために、指導の際に意識して欲しいことがあります。

### ① 英語をたくさん聞かせてあげてください。

CROWN Jr. の特徴の一つに、多種多様な英語を大量に聞かせる教科書であることが挙げられます。第二言語習得理論では、十分な量の良質な言語インプットが与えられなければ、言語を習得することはできないと考えられています。「良質」とは、未習の語句や表現が含まれていても、伝えられる意味内容を理解できるような手がかりがあることです。

CROWN Jr. の英語音声は、繰り返しを多用して聞き取りやすくしたり、意味内容の推測を促すようなイラストがつけられたりしています(Panorama、Listen & Talk、Story、Enjoy Listening など)。また、リスニングテストのような一方的な聞き取りにならないように、児童に向けた問いかけ(「~を見て」、「あなたはどう?」など)がたくさん含まれています。指導用 CD やデジタル教科書(教材)を用いて英語を聞かせる時には、先生も児童と一緒に、「Look at ....って言ってたな。どこを見ればいいんだろう。あ、ここか」と言いながらイラストを指さしたり、「Can you see Nick?」という英語には、「Yes!」と答えたりしてください。

良質な言語インプットを受け取っていると、児童の語句や表現への気づき、意味の推測を促します。英語を聞く活動では、児童の気づきを取り上げてください。「brotherって聞こえたよ」というように話されている語句や表現の音声に気づいたり、「たくさん持っているって言ってる」というように意味内容を推測したりする児童の姿があれば、Really? と言ってもう一度英語を聞いて確認したり、Yes. "I have many yo-yos." と英語で言い換えたりしてあげるとよいと思います。児童が自ら英語を学んでいく力、すなわち「ことばへの気づき」を

育むことが重要です。教え込んだり、機械的に反復練習をさせたり、無理やり気づかせるのでは、外国語によるコミュニケーション能力の習得は実現しません。

# ② 自分のことばで表現させてください。

新学習指導要領では、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することが目標とされています。CROWN Jr. では、ことばに気持ちを乗せられる言語活動となるように心がけました(JUMP など)。既習表現を駆使して児童が自分の「思い」を伝えられるような言語活動です。目的・場面・状況を意識しながら、伝える内容を考えたり整理したりして、自分のことばで考えながら、伝え合うようにしました。CROWN Jr. では、表現を丸ごと練習するようなチャンツはありません。自分の本意でないことを英語で言わせることはできるだけ避けたいと考えたからです。その代わりに、語句をリズムに合わせて練習したり、語句の音声的な特徴を学んだりする活動を設けています(Sound Chant や Word Chant)。その上で、自分が伝えたいことを、語句を選択しながら表現

### ③ 児童の世界を広げてください。

する活動を取り入れています (Talk to Friends, JUMP)。

小学校外国語科では、身近で日常的な話題を扱うことになっています。CROWN Jr. は、発信活動(話すことや書くこと)では、学校や教室、身近な場面を取り上げましたが、受信活動(聞くことや読むこと)では、地域や社会に関する題材、海外に関する題材、心を揺り動かすような題材なども含めました(Panorama、Story、実世界の英語など)。児童の世界を広げる題材を通して、児童の心を耕し、考える力を高め、英語という外国語を通して、さまざまな人たちと関わり、協力し、共に生きていくことのできる心や思考力を育んでください。



酒井英樹(さかい・ひでき) 信州大学学術研究院教育学系教授。 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語 ワーキンググループ及び言語能力の向上のための特別 チーム委員を務めた。小学校英語教育学会理事,日本児 童英語教育学会事務局。

# 永井淳子(ながい・じゅんこ)

小学校での外国語の授業がいよいよ始まりました。教科書や教材も用意されましたが、外国語の授業で、果たして何を大切にして、どのような経験を積ませていけばよいのでしょうか。教材を上手に使いながら、指導者も一緒になって英語の音声に親しみつつ、子どもの学びをサポートする指導のあり方について考えたいと思います。

#### はじめに

新学習指導要領が実施され、小学校の4年間と、その後に続く中学校、高校と合わせて、10年間の英語教育のスタートの部分を担うことになった小学校の外国語教育では、英語をたっぷり聞かせ、英語の音声の基盤づくりを心がけたいものです。高学年では教科として外国語(英語)を学ぶことになりますが、身構えることなく、中学年同様、楽しく英語の音声に触れながら、その中で自ら英語のルールに気づき、自分の思いを表現するために英語を使う経験を積ませたいと思います。子どもたちが興味を持って英語に耳を傾ける場面設定や状況づくりを心がけ、子どもとの気持ちを込めたやり取りを通してアウトプットを引き出していけるよう、指導にあたりたいと思います。

### 教材について

CROWN Jr. では、各 Lesson でねらいとする表現やテー マに合わせて、子どもにとって身近で、思わず見入ってしま うような世界を「パノラマ」として描き、その場面全体につ いての語りである Panorama Talk を聞く時間を設けました。 子どもたちは、目の前に広がるパノラマを見ながら聞こえて くる語りを耳にして、「こんなこと言っているのかな?」と、 持ち前の類推力を働かせることでしょう。一回で全てを完璧 に聞き取る必要はなく, 何回も聞き, 指導者と内容について やり取りを重ねていく中で、だんだんと聞き取れる部分が多 くなっていく、その感覚を楽しんでほしいと思います。この他、 Panorama Dialog(パノラマで描かれている場面や人物に焦 点をしぼった会話。その Lesson のねらいとする表現が盛り 込まれている)や Spotlight の表現(ねらいとする表現をさ らに焦点化したもの)が用意され、子どもたちは、それらを 通してねらいとする表現に触れていきます。この過程を通し て、子どもたちの中で、徐々に英語の音声(表現)と意味が 一致し、「この表現はこんな意味なのかな」「こう伝えたい時 は、こんなふうに言うのかな」などと気づきが促され、理解 が深まることを期待しています。また、インプットを受けな がら、子ども自身がねらいとする表現を使ってアウトプット していけるよう、Listen & Talk の様々な活動を用意しました。 いきなりアウトプットさせるのではなく、指導者が子どもと やり取りしながら、まず自分のことを表現してみせ、子ども がそれを受けて自分のことを表現してみる。そして友だちと 伝えあったり、クラス全体の前で発表したりと、段階を追っ てアウトプットを引き出すように工夫しました。

#### 大切にしたいインプットからアウトプットへの過程

私たち大人は、どうしても、すぐに子どものアウトプットを期待し、成果を求めようとしてしまいがちです。初めから "完璧な英語表現"を覚えさせ、すぐに言わせようとするのではなく、意味のある状況設定の中、子どもが思わず聞いてしまうような題材・内容の英語を耳にし、子どもが自分で考え、使いだすように導きたいと思うのです。そのためには、良い音声教材を聞かせることはもちろん大切ですが、やはり指導者自らが英語を使ってみせ、子どもたちが「先生はこう言っているのかな」「こう伝えたい時には、ああやって言えばいいんだな」「じゃあ、こんなふうに言ってみようかな」と気づき、考え、英語を使いだすように導きたいと思います。指導者と子どもとの気持ちを込めたやり取りの中で、英語らしい音声のインプットを与え、ことばが生き生きと使われる体験を積ませたいものです。

# やり取りを通して子どもの学びをサポートしていく

「指導者と子どもとのやり取り」と言っても、子どもは初めから流暢に英語を話すことはできません。音声教材や指導者とのやり取りを通して英語を耳にする中で、子どもたちがだんだんと英語で自分の思いを表現できるよう導きたいと思います。もちろん、その過程では、子どもが単語レベルで応答したり、不完全な英語を発話したりすることもあるでしょう。それに対して、指導者は「伝えたい」という子どもの思いをまず受け止め、正しい英語を使って聞かせ、子どもが試行錯誤しながら自ら自分の発話を修正し表現していけるよう、サポートしたいと思うのです。その過程を通じて、徐々に子どもが自信を持って英語らしい音声でアウトプットできるようになり、皆の前で発表したり、友だちとやり取りしたりできるようになっていくことを期待したいと思います。

先生方には、「自分の英語は完璧でないから…」と引いてしまわずに、良い音源、デジタル教材も含めた視聴覚教材などを上手に利用して、子どもたちと一緒に学びながら授業を進めていっていただけるとよいと思います。子どもと気持ちを込めて英語で表現し合い、その学びを温かく見守りサポートしていく、そんな授業を目指して一緒にがんばりましょう!



#### **永井淳子**(ながい・じゅんこ)

東京都市大学付属小学校英語科講師。その他, 青山学院 大学, 東京学芸大学において, 小学校英語関連のコース を担当, 教員養成に携わる。著書に「新版 うたって遊 ぼう 小学生の英語の歌』(小学館), 「小学校の英語 教 室で使える基本表現 200〈新版〉』(三省堂)他。『プログ レッシブ 小学英和・和英辞典』(小学館) 編集委員。

# 山本玲子(やまもと・れいこ)

ことばの学びは、心の成長を助けるものであるべきです。多くの先生が取り組まれてきたストーリーテリングの実践成果を、英語が教科化された後も確実に継続するために、CROWN Jr. には世界中で愛されているオーセンティックな 6 編のストーリーを掲載しました。遠い異国の物語に想像の翼を広げて、わくわくしながら英語を聞く体験は、英語学習の入り口に立つ子どもの心にきっと小さな種を蒔くことでしょう。

### 子どもの心を動かす豊かな題材

たくさんある教科書の中でも CROWN Jr. にしかない素晴らしいものは何でしょうか。と言うといささか自慢めいて聞こえるかも知れませんが,それくらい自信を持っているのが5年生,6年生それぞれ3編ずつ掲載されている Story です。小学校英語の黎明期に小学校現場にいた僥倖で,中学校英語教科書 NEW CROWN の著者でもおられた故齋藤榮二京都教育大学名誉教授の薫陶を受け,長年にわたり絵本の読み聞かせの実践を重ねてきました。昔から世界中の子どもに愛されているオーセンティックな物語は,子どもの心をとらえて離さない豊かな魅力にあふれています。心が動いた時,子どもは夢中で英語を理解しようとし,物語の展開を想像しようとします。そんな子どもの姿を見たことのある小学校の先生なら誰もが,経験知としてストーリーテリングの重要性を知っておられるはずです。

教材として作られた絵本や、各種教材に載っている教材として作られた物語には、特定の英語表現に慣れ親しませたり特定の音に気づかせたりする目的があり、その目的のためには有効です。ただそういった教材に触れるだけで終わるのはあまりにもったいない、と思うほど小学生の心はやわらかで感性にあふれています。遠い異国の物語に想像の翼を広げて、わくわくしながら英語を聞く体験は、英語学習の入り口に立つ子どもの心に小さな種を蒔くことになります。

学習指導要領が定めるとおり、小学校段階では身近な話題 について聞いたり話したりする活動がふさわしいことは言う までもありません。だからこそ、身近でない世界に自然な形でいざなってくれるストーリーテリングが輝くのです。

#### 予想可能な Predictable (ブレディクタブル) Story

先ほど経験知と申し上げましたが、語彙や知識の少ない子どもが内容を予想できるように工夫され語り継がれた物語には、共通した特徴があります。CROWN Jr. の Story にはその特徴を満たしたものを厳選しました。説明しすぎないけれど物語の世界観を確かに伝える魅力的なイラスト、リズムの繰り返し、語彙の繰り返し、物語の展開の繰り返し、さらに子どもが気づいたそういった規則性が逆に崩れる箇所の存在です。

たとえば5年生 Lesson 3の Twelve Months(マルーシカと12の月)。寒い12月に何度も森へ行かされたマルーシカが、その都度姉の欲しがる花や果物をもらって帰ってくるという同じ展開が繰り返されます。不思議に思った姉が「自

分で行く」と発言することで、それまでの規則が急に崩れるのです。規則性の中で少しずつ英語が聞き取れ理解できるようになっていた子どもは、規則性が崩れたところで起承転結の「転」を迎えたことに気づき、ドキドキしながらその先を聞くことなります。また規則の崩れる箇所の英語表現に対し、子どもは無意識に注意を払い記憶することも研究から明らかになっています。これが Story の力です。





CROWN Jr. に掲載した6つのStory は、日本語でも多くの子どもが知っているものもあれば、タイトル程度しか知らないだろうと思われるものもあります。意図的にバラエティに富むようにしました。話を知っていることと知らないことの双方にそれぞれ良い面があるからです。心理学者の知見によると、子どもは予想可能な物語を何度も繰り返し聞きたがりますが、それは自分の予想できる箇所を増やしたり予想が合っていることを確認したりする作業が大好きだからです。これは、英語で物語を聞く場合でも同じです。先生は日本語に直すことなく何度でも聞かせてあげてください。音源でもご自分の声でもかまいません。

# 悲しみも喜びも大切な情動

本当に豊かな物語とは、楽しいという情動にとどまらず私たちの心の様々な琴線に触れます。紙幅の関係から日本語のタイトルだけ挙げますが、「北風と太陽」「メリーさんの羊」「ガリバー旅行記」は楽しくわくわくする物語、「青い鳥」「マルーシカと12の月」は少し寂しい、あるいは怖いエンディングです。「幸福の王子」は悲しい物語です。子どもたちが豊かに心を動かしながら英語の音に浸る体験をしてほしいという願いから選びました。それこそがことばの学びだと信じるからです。



#### 山本玲子(やまもと・れいこ)

公立小中学校教諭,大阪国際大学准教授を経て,現在京都外国語大学・短期大学キャリア英語科准教授。博士(言語文化学)。小学校英語教育学会理事,同京都支部 KEET 支部長,関西英語教育学会理事,国立・公立・私立小学校のアドバイザーをつとめる。

高学年から始まる教科としての英語における文字指導は、英語の文字をどのように書かせるか、いつ書かせるか、といった「書く指導」と、どのように音声から文字へと導くかの「読む指導」の2点に先生方の注目が集まっています。日本語と英語の文字に大きな違いはあるものの、ひらがな、カタカナ、漢字など様々な文字の書写や表現指導のご経験がある小学校の先生にとっては、書く指導はある程度イメージはできても、一体どのように「読む指導」を行うのかが、一番の課題になるのではないかと考えます。学習指導要領に沿った「読みの指導」を、公立小学校での教科化に先行する形で教科として英語指導を行ってきた小学校での実践を交えながら考えてみたいと思います。

# 日本の小学生は英語が読めるか

学習指導要領では「読むこと」の目標を

- **ア** 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現 の<u>意味が分かる</u>ようにする。(下線筆者)

としています。アに関しては、活動例として挙げられているように「活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動」および「読み方を適切に発音する活動」を、児童の発達段階に合わせて楽しい活動で繰り返し行うことで達成は十分可能だと考えられます。しかし、イの目標は、先行している私立小学校で、専科教員が個々の児童の理解度を把握しながら細心の注意を払い指導しても、4技能の中で一番児童間に差が出てしまう、いわば最もハードルが高いところです。はたして、小学生は卒業までに、慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、(読めて)意味が分かるようになるのでしょうか。

そもそも児童の中には、例えば apple を文字の塊としてとらえ「あ、先生、僕、それ読める。アップルや」という子もいれば、アルファベットジングルやローマ字指導を経てある程度文字から音の予想が立てられるようになり、dog や cat の英語を見ると(読めて)意味が分かる子もいます。ただ、ローマ字の指導時間数の少なさを考えると全員がそうではなく、さらにアルファベットのジングルが入ることで、却って文字の名称読みと音読みを混同してしまい、本当に簡単だと大人が思っている三文字単語も読めない子がたくさんいます。この「読みの指導」こそ、系統立てた指導とそれに基づいた教材が必要ではないかと強く思います。それなくしては、小学生が無理なく自然に「(読めて)意味が分かるように」はならないからです。

### 「読めた」「わかった」という達成感

CROWN Jr. では、たくさんの音声と意味を結び付けるため Sound Chant や Word Chant という、まるで音付きピクチャーディクショナリーのような楽しい教材が入っています。Chant に選ばれた単語や表現は次にくる Enjoy Reading でのトップダウン指導に紐づけされたもので、小学生向けのチャンツや音声指導の専門家が厳選した単語やその指導順に則った読みへのボトムアップ指導となります。音声から意味へ、そして無理なく文字へと結び付けることができるでしょ

う。5年生の Lesson 6 を見てみましょう。Word Chant では,on / in / by / under という 4 つの前置詞がリズミカルなチャンツで紹介されています。ここで児童たちには「あ,簡単,簡単」と読める自分への自信を持たせます。

# 「読んでみたい」という動機づけ

次に、Enjoy Readingでイラストを頼りに意味を確認しながら、先生や音源の読み聞かせを交え、「読めるかも」「自分でも読んでみたい」という気持ちを高めるような指導を行っていきます。



#### 活動の手順(抜粋)

- 1. イラストを見て、文字で書かれていることを予想する。
  - ・音声を聞かせる前に、イラストを見せて、どんなことが 書かれているかを予想させる。
- 2. 指導者の読み聞かせを聞いて、内容を想像する。
  - ・イラストを示しながら、内容がわかるように読み聞かせ をおこなう。
  - ※自分でも読んでみたいという気持ちを喚起させるように、 楽しい読み聞かせにしたい。
- 3. 音声を聞きながら、文字を目で追う。
  - ・音声に合わせて、文字を目で追うよう指示する。
- 4. 文字を目で追いながら、読めるところは声に出す。
  - ・児童が読めそうな単語の前でポーズを置いて読みを誘う。

学習指導要領の目標(2)読むこと イは、発表活動に向け 児童が何度も聞いたり口にしたりした内容を、文字として見 た時に「意味が分かる」ことに限るものではありません。ストー リーテリングで児童の知的好奇心を高め読みへと導く活動は、 「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味 が分かるようにする」にふさわしいと言えるでしょう。初期 の「読む指導」の重要性を十分に理解した上で、文字通り"Enjoy Reading"できる機会をぜひ子どもたちにたくさん与えてや りたいものです。



#### 田縁眞弓(たぶち・まゆみ)

ノートルダム学院小学校英語科。京都教育大学,京都ノートルダム女子大学などで教員養成課程における小学校英語指導法講師。『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』第13章「絵本を選ぶ視点」分担著者。

# 長田恵理(おさだ・えり)

外国語で「書く」ことは簡単なことではありません。しかし、文字情報はコミュニケーションの幅を広げます。ローマ字から始め、段階的に丁寧に「書くこと」を指導していくことは小中連携の要の一つとも言えます。

小学校外国語科では、外国語活動で扱われる「聞くこと」「話 すこと[やり取り]]「話すこと[発表]」に加えて、「読むこと」「書 くこと」が加わります。ただし、ここが出発点であることか ら、「慣れ親しませることから指導する必要があり、「聞くこ と』、『話すこと』と同等の指導を求めるものではないことに 留意する必要」(文部科学省、2018)があります。多くの小 中学生の指導をしてきた経験から、5年生から始めて、今よ りも緩やかなペースで「読み」「書き」の力を育てていくこと はよいことだと考えます。しかし、そうであるがゆえに、は じめの一歩は子ども達にとって良い学び・経験でなければな りません。これまでに出会った子ども達の姿を思いうかべ、「ど のような段階を踏み、どのような手立てをすれば学びやすい か」「どんな課題であれば子ども達は興味を持って取り組むの か」を考えながら CROWN Jr. を作りました。ここでは主に、 CROWN Jr. での工夫や、「書くこと」について著者の一人と しての思いを述べたいと思います。

#### ローマ字

ローマ字は、ひらがな、カタカナ、漢字とともに「日本語」の表記方法の一つで、主に自分の名前や住んでいる場所を伝えるときに使います。教科書ではまず、自分の名前を書くことから始めますが、実態に応じて学校の名前や地名を書いてみるのもよいでしょう。CROWN Jr. 紙面では、国語科教科書にあるローマ字表とは異なり、日本語の五十音表と同じ配置にしています(CROWN Jr. 5 pp. 24-25)。実際に子ども達に使ってもらって使い勝手を確認しましたが、探しやすいとのことでした。また、例えば「か行」が縦に一列に並んでいることで一文字目がみな"k"で始まり、次にくる文字が変わることで「か」「き」「く」「け」「こ」に対応することに気付きやすくなります。文字だけでなく音も組み合わせであることに気付く子どももいるかもしれません。巻末には通常のローマ字表もあり、切り取って見ながら書くことができます。

# 段階的に「書く」

文字を書く際には、特に小文字において、高さの違いを意識して「4線に書く」必要があります。CROWN Jr. では4線をより書きやすい間隔(3:4:3)にし、基線も色を変えるだけでなく少し太くしています。書き写すための手本を示す Word Bank などでは、より手書き文字に近い専用フォントを使用して配慮しています。

小学校外国語科では、子どもが綴りを覚えて書くことを目標にはしていません。CROWN Jr.ではなぞり書きから始め、徐々に書き写す部分が多くなるようにしています。5年生では単語だけを書くか、自分が書きたい語句を選んで文の中に当てはめる形が主ですが、6年生では文単位で書き写すこと

を含みます。その際、語順を意識できるよう、例えば6年生 Lesson 1 Write & Talk の Word Bank では敢えて日本語の 語順で「好きな(持っている)もの」「動詞」の順番で提示し、「英語ではどの順番で書くのかな」とキャラクターから問いかけ、書き写す場所では動詞の位置を四角で囲んでいます。紙幅に限りがあり、Word Bankに子ども達が書きたいことのすべてを掲載することができません。日々子ども達と接しておられる先生方は実態をよくご存じのことと思います。巻末の Words & Phrases や指導書にある語彙も活用して、伝えたいことが書けるような支援をお願いしたいと思います。

日本語と違って英語は語と語の間をあけるのがルールですが、学び始めたばかりの子ども達は一文字ずつ写すことになりますので、一つの単語のなかでの文字間隔が揃わなかったり、語と語の間のスペースが十分になかったりするかもしれません。ピリオドや記号・符号なども含め、子ども達に日本語の表記法との違いに気付かせ、なぜスペースが必要なのかを一緒に考えてみてもよいでしょう。

#### 技能統合型の活動

音声で慣れ親しんだ表現を用いて、各 Lesson の終わりに Write & Speak や Write & Talk, Listen & Write といった 技能統合型の活動を入れています。実際に文字を使用してコミュニケーションをとる場面を想像し、子ども達の興味関心を引くような身近な話題に加えて、外国の教科、行事の時期、人気の職業など異文化を知ることができる活動を取り入れました。せっかく文字で表したものですから、6 年生教科書巻末の My Summer Vacation や THIS IS ME シートだけでなく、ワークシートなども教室や廊下に掲示し、文字で伝え合う体験をさせたいものです。

文字を使えば、目の前にいない人にも情報を伝えることができます。少し長めの発表では自分の発表のメモとして文字情報は記憶の助けになりますし、記録として残すために書くこともあります。コミュニケーション、と聞くと音声による会話をまずイメージしがちですが、文字で情報を伝えることができればコミュニケーションの幅が広がります。外国語で「書く」のは簡単なことではありませんし時間もかかりますが、その第一歩として、小学校外国語科では段階的に丁寧に指導したいものです。

参考資料: 文部科学省. (2018). 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解說 外国語活動·外国語編』 開隆堂出版



#### 長田恵理(おさだ・えり)

國學院大學人間開発学部初等教育学科准教授。英会話教 室講師, 栃木県大田原市立小学校英語活動指導員などを 経て現職。

#### 豊かなことばの学びを実現するために



ピカピカの教科書での英語学習が始まりました。期待も不安も胸に抱きながら、教師も子どもたちも英語学習について新たなフェーズを迎えています。「教科書どおりにやればいいのね」という声が聞こえますが、その前に教える側が理解しておくべきことは何でしょうか。走り出す前に、あるいは走りながら、考えてみましょう。

いよいよ小学校での英語教育が完全実施となりました! あぁ大変 (深いため息) …と思わずに, 笑顔で新しい教科書 を開いてください! 何年もかけて多くの編集委員の先生方が, 日本の子どもたちのことを思いながら心血を注いで出来上がったすばらしい教科書が全国の子どもたち, 先生たちに届いています。

今回の学習指導要領の改訂で、教える側はいくつかのことを心に留めておかなければなりませんが、それらを一言でいうと、「教師自身が教えることを考え直す」ことではないかと思います。それって???と思われますよね。以下にポイントをいくつかに分けてわかりやすく説明します。

# 学びのファシリテーターとしての教師の役目

習ったことを理解して、覚えて、教科書の英語を暗記して…という時代ではありません。教師は、子どもたちが自分の力で学びを進めるのを助ける役目を担っています。調整役、道案内、お助け役、これらの役目、つまりファシリテーターとしての役目に目を向けて実践していかなくてはなりません。

CROWN Jr. の教科書でいえば、子どもたち自身が見通しを持って、その学期の最後の自分の姿を思い浮かべて学習が進められるように学期中の教材が HOP, STEP, JUMP という段階に分けられて構成されています。子どもたちは、試行錯誤をしながら、既習表現を用いたり、新しい語彙に出合ったりして、自分の英語の世界を膨らませ、学期の最初に考えていた目標に向かって学習を進めます。教師はその行先の方向を導き、子どもたちの迷いに助言を与え、リスクを恐れずにやってみることを奨励し、完璧ではなくとも自分たちで出来たことを認め、褒める! そんな役目です。人は大人であっても、褒められてこそ自分の存在を確かめられ、次に進む勇気を与えられます。英語を学ぶ子どもたちにとってそれはなおさらです。認めて褒めながら、子どもたちが英語を身に付けていくのを見守りましょう。

# 思考力、判断力、表現力を伸ばすこと

教材を与えて教えているだけでは思考力や判断力は育ちませんね。ではどうしたらいいか。ポイントは3つあります。1つ目は何を思考すべきかはっきりさせてあげること。2つ目は思考する時間を与えること。3つ目は思考を友だち同士で共有し、訂正したり再度思考したりする場面を設定し実施させること。この3つのことを授業の中に組み込むことがファシリテーターとしての教師の役割の一つといえるでしょう。しかしながら、日本語での話し合いの場面が長くなっては、子どもたちの英語の表現力は伸びません。思考をシェアする日本語での話し合いの時間はあらかじめ何分なのかを伝えて、

その中で活動させ、次に進むように導くことも大切です。

# 話すことは聞くことと表裏一体の大切さ

英語を話すことと、聞くことは表裏一体です。とかく英語の発話に焦点がいきますが、話されたことをしっかり聞いて、理解して話をさらに続けようとすることは同等に大切なことです。そしてこれは小学校の英語教育が持つ大きな大きな役割の一つだと思います。聞いている内容に興味を示して、会話を続けることでこそ、人は人間関係を豊かにしていくことができます。

そして、やり取りの豊かさが表現力の豊かさを生みます。そのやり取りの先に「発表」があり、「発表」は、単に自分が用意してきた内容をまとめて覚えて発表する、という単純なことではなく、「聞き手を意識して、聞き手に届くように、語りかけるように伝える発表」となるように導くことが大切です。意味のある場面を設定し、意味のある情報を、意味のある相手に伝えるための「発表」を目指すということです。聞き手は、発表者の情報に、うなずきながら、あるいは、ちょっと首をかしげながら聞き、内容について「聞きっぱなし」にせずに、常に自分の反応を発信していくことが求められます。どのようにそれらを可能にしていくか、助言やモデルを示して導くことが大切です。

# 学習の成果を一発勝負にしない工夫

最後に CROWN Jr. に戻りますが、学期の最初に HOPとして学期の学びの見通しを持ち、STEPで様々な英語の活動を経験し、JUMPでその経験を生かして「発表 (Presentation)」する構成になっています。また、JUMPは JUMP 1 とJUMP 2の2段構成になっています。子どもたちが主体的に準備した「発表」が一発勝負にならず、相手を代え、あるいは発表の形式をちょっと変化させ、JUMP 1 で出来たことをさらにレベルアップさせたり、JUMP 1 ではうまく出来なかったことをもう一度挑戦したりするための構成です。一発勝負ではなく、もう一度チャンスがあることは学びを定着させ、深めることにつながり、学習したことを「生きる力」に昇華させることへと導きます。

さぁ,新しい教科書で,子どもたちと一緒に英語の世界を 楽しみながら学習の道案内をしていきましょう!



#### 横田玲子(よこた・れいこ)

神戸市外国語大学大学院教授。公立小学校教諭9年を経て渡米。アリゾナ大学教育学部でPh.D. 取得後帰国。私学小学校教諭を経て2004年より現職。各地の小学校英語の教員研修に携わる。

# Tips for Activities!

「外国語活動・外国語の授業は準備が大変!」「せっかく作った教材も授業では一瞬で 使い終わってしまい、また次の教材を作らなければならない!」と思っている先生方へ。



# 誰でもできる「外国語活動・外国語」の活動 「プラス one! マイナス one! さらに!!」

#### 使用するもの

- ●カルタ用カード
- 1月~ 12月の月の絵カード
- ●月を扱っている歌やチャンツ
- 1月~ 12月の月を連想させる曲を集めた CD

#### はじめに

どの単元でも英単語のインプットは必ず行う活動です。その際、児童に提示するフラッシュカード、黒板に掲示する 絵カード、カルタで使用するカードなどなど、時間をかけて 作った物を使用する際は 1 回きりで終わってしまったり、45 分の中ですぐに使い終わってしまったりということはないで しょうか。あれだけ苦労して作ったのに、また次の時間の教 具を作り始めている先生方の悩みは尽きないと思います。何 より私自身もそうです。小学校の学級担任として、国語も算 数も体育も家庭科も毎日授業準備があります。「授業準備の時間がない。けれど、児童には楽しく興味をもって外国語の授業に参加してほしい」このような思いで取り組んでいる、同じ教具を何度も活用できる活動を紹介いたします。

#### 活 動

#### ①音声インプットは十分に

小学校の外国語活動・外国語において大切なことは良質な 音声をたくさん児童に聞かせることです。英語が堪能ではな い小学校の教師にはかなりハードルが高く聞こえてしまいま す。しかし、良質な音声とは必ずしも教師が発する音とは限 りません。

CD にある歌やチャンツ、ALT とのやり取り、デジタル教材等にある音声。これらを活用することで良質な音声を十分に聞かせることができます。私の場合、授業だけでなく、授業前の休み時間から音声を流したり、朝の会や帰りの会でも聞いて口ずさんだりしています。

#### ②カルタの活動はすぐ終わらない

十分に音声で慣れ親しんだ後に、よりインプットが定着する活動としてカルタをよく行います。カルタの活動は、ちょっとした工夫で難易度を変えて何度も行うことができます。例えば月の英単語をインプットする場合、次の4つのレベルに分けて行うことができます。

レベル 1 では教師が発音したカードを取ります。教師が英 単語を発音→ ALT が発音→教師が日本語で言ったものを取る。 これだけでも児童は頭をフル回転し活動に取り組みます。「では、レベル2は次回ね」と言って次の活動に移るだけで児童 は次回の授業への興味が高まります。

レベル2はレベル1に何気ない工夫を加えたものです。教師が発音した月の英単語に「プラス one」した月を取ります。例えば教師が January と言ったら児童は February を取る。児童はさらに頭を回転させて取り組みます。

レベル3は「マイナス one」。ここまで来れば何も説明しなくても児童は取り組みます。August と言ったら July を取ります。このような活動は「数字や曜日」などにも使うことができます。

レベル4はイントロクイズです。1月~12月の月を連想させるCDを流し、カルタを取ります。例えば、童謡「さくら」ならApril、クリスマスソングならDecemberと言いながら、児童はカルタを取ります。私の場合、使用した曲は音楽室で集めることができました。



And the second of the second o

月の絵カードと活動の様子

月のカルタ

# **Classroom English**

#### 英文

- Let's play karuta.
   First, normal version.
- Next, plus one [minus one].

短い文ですが、十分に活動ができます。



三田祐太(みた・ゆうた)

青梅市立第五小学校主幹教諭。東京都小学校外 国語教育研究会の理事。東京都認定講師として 各地区の研究会や校内研究で「誰でもできる外 国語活動・外国語」をテーマに講師をしている。



# トランプカードを使って

トランプサイズのカードを使って、文字や単語に慣れ親しんだり、文を作ったりする活動をご紹介します。アルファベットの文字の名称読みや音読み、語順を意識させる活動など、さまざまな文字指導の活動ができます。

# ▶略語を考えよう

・アルファベットの名称を聞いてわかるようになったあと, 文字を見て名称を言う活動としておこないます。

#### (用意するもの)

- ・大文字の児童用アルファベットカード
- ・大文字の指導者用アルファベットカード

#### (手順)

- ①黒板に指導者用アルファベットカードを貼る(板書でもよい)。
- ②児童をペアまたはグループにし、それぞれにアルファベットカードを配布する。カードを使って、CD や USA など、2 文字以上からなる略語をできるだけ多く考えさせる。
- ③ペアまたはグループごとに、考えた略語を全員で声を合わせて発表させる。指導者は略語を板書し、略語に含まれる文字にチェックを入れる。板書した略語をクラス全員で言う。
- ④全ペアまたはグループの発表後、チェックのついていない 文字についてどんな略語があるか、クラス全員で考える。

# ▶アイスパイゲーム

・アルファベットの名称を聞いてどの文字かわかること,文字を見てその名称が言えることができるようになれば,こんなゲームを楽しみながら名称読みに親しむことができます。

#### (用意するもの)

・大文字の児童用アルファベットカード

#### (手順)

- ①児童をペアにし、アルファベットカードを配布する。カードを机の上にバラバラに広げさせる。
- ②次のルールでアイスパイゲームをさせる。
  - (1) ペアのひとりが心の中で文字を決める。 たとえば M なら, "I spy M." と言う。
  - (2) もうひとりは言われた文字を素早く指で押さえる。
  - (3) 押さえた文字が正解なら"Good job."とほめる。違っていれば"Try again." などとコメントしながら,スピーディーに 5 回ずつおこなう。
- ③慣れてきたら、一度に言わせる文字を増やしてもよい。

### ▶文をつくろう

・音声で充分に慣れ親しんだり文字を見て読んだりした文を, バラバラの単語を並べ替えて完成させる活動です。クリエ イティブに文をつくる活動に挑戦させることもできます。

#### (用意するもの)

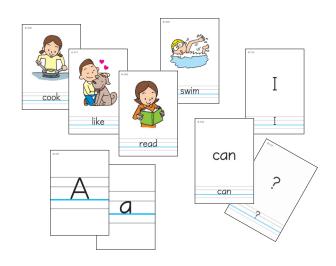
- ・音声で充分に慣れ親しんだ文の単語が、1枚に1語ずつ書 かれたカードのセット。
- ※ピリオドやクエスチョンマークなども個別のカードにする。
- ※無地のカードに指導者が言った単語を児童に書かせてもよい。

#### (手順)

- ①児童が音声で充分に慣れ親しんだ文を選び、必要なカードを用意する。指導者が言った単語を児童に書かせる場合には、無地のカードを用意して配布し、活動の最初に、指定した文の単語でとに1枚のカードに書かせる。
- ②カードをバラバラに混ぜて、語順に注意しながら並べ替え させる。ペアで取り組んだり個人で挑戦したり、2 文を混 ぜたりしてもよい。
- ③慣れてきたら、1 枚のカードを好きな単語に入れ替えてオリジナル文をつくらせてもよい。

参考: 『CROWN Jr. ⑤⑥ Teacher's Manual 分冊⑦ 「活動アイデア集」」

CROWN Jr. では3種類のトランプカードのご用意があります。上記の活動をおこなうには, [基本編] が便利です。[基本編] にはアルファベット,基本動詞,文作成カード,無地のカードの,合計220枚がセットになっています。





# VIVA 100KING!

我輩は 100KING。100 円 SHOP は教材やお助けグッズの宝庫。今回は月間タイプの壁掛けポケットを紹介するぞ。

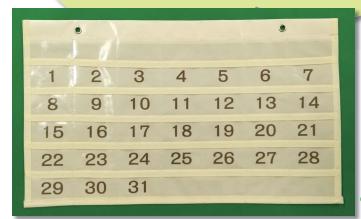
この壁掛けポケットはカレンダーのつくりになっているから、月日に関わる活動に使える便利な商品なんじゃ。紐を通す穴が空いているんじゃが、薄手だから磁石でペタッと黒板に貼ることができる。きょうの日付を英語で確認したり、誕生日や行事の日にちを尋ねたりするときに使えるぞ。

その日の日付を確認するような簡単な活動はもちろん、Sun , Mon などの曜日カードもついているから、子どもたちとやり取りしながら、その月のカレンダーを作ってみるのもいいの。

序数の導入が終わったら、子どもたちの誕生日の日付を尋ねる活動なんてどう じゃ? 日付のところにも透明なポケットがついているから、児童の名札をそれぞ れの誕生日の日付のところに入れたり、行事名を書いたものを行事のある日付のと ころに入れたりもできるんじゃ。序数を書いたカードを入れれば、序数の言い方も 確認できるの。『活動アイデア集』の 9 ページに詳しい手順が載っておるぞ。

ポケットはビニル製だから、水性ペンやホワイトボードマーカーで書き込んだり 消したりできる優れものじゃぞ。楽しく活用しておくれ。

ちゃり~ん。値段はもちろん100円。お得じゃの。また会おう。ふぉっふぉっふぉっ。 おっとその前に。きょうは我輩のベストパートナー, 100QUEEN を紹介するぞ。 我輩に負けず劣らず100円 SHOP に通い詰めているのじゃ。



壁掛けポケット月間タイプ 110円(税込み)

Thu gat Fri 火 Mon Wed Sun

〈お問い合わせ先〉

Can ★ Do: https://www.cando-web.co.jp/

壁掛けポケット月間タイプ(JAN: 4573188319265)



•					•	
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

参考: 『CROWN Jr. ⑤⑥ Teacher's Manual 分冊⑦ 「活動アイデア集』 p. 9 「関連活動 序数の導入」』



# VIVA 100QUEEN!

は~い! みなさん, はじめまして。100QUEEN よ。どうぞよろしくね。私も 100 円 SHOP が大好きなの。今回は英字ペーパーナフキンを紹介しますわ。

この英字ペーパーナフキンは、1 辺が約 25cm のペーパーが 4 つ折りになっているおしゃれなナフキンよ。私が見つけたのは、ホワイトとブラウン。広げると英字新聞のように記事が書いてあったり、新商品の宣伝があったりするわよ。あら、電話番号も書いてあるわ。どれどれ? 番号を英語で言えるかしら。英語での数字の言い方を確認させるのに使えそうね。

さあ、子どもたちといっしょに大文字のA~Z、小文字のa~zを探してみましょう。 52文字全部あるかしら。紙のナフキンだから、鉛筆で印をつけながら探すことができるわ。 ペアやグループで、協力して探させるのもすばらしいわね。

先生が読んだ単語を探す活動もできそうね。cake, shop, name, summer, new など, 習った単語を見つけられるかしら。

気をつけなくちゃいけないのは、英語のペーパーナフキンを選ぶこと。フランス語のもの もあるから、よ~く見て選んでね。

ちゃり~ん。50 枚で 100 円。2 色とも買っても 200 円よ。お買い得でしょ。ではまた。 おほほ、ごきげんよう。

※大文字 26 文字、小文字 26 文字のう ち, K, Q, V, X, Z, j, k, q, x, zなど、掲載のない文字もあります。 答え合わせをする際などに、どの文字 を見つけることができなかったかを 確認したり、どの文字がなかったかを 確認したりしてみてください。(白の ペーパーナフキンで確認できなかっ た文字: K, Q, X, Z, q, z。 ブラ ウンのペーパーナフキンで確認でき なかった文字: K, Q, V, X, Z, j, x, z) ※弊社では英文校閲をしていません。も しも誤りを見つけた場合、見つけた児 童をほめて、正しいスペリングはどう 書くだろうなどと問いかけて、みなで 考えるなどしてください。



〈お問い合わせ先〉

Seria 株式会社セリア:www.seria-group.com (PC サイト) / www.seria-m.jp (スマートフォン・携帯サイト) ※掲載商品は取材時点のものであり、現在お取扱いしていない場合があります。





『Ready Set Go!』は、本号より誌名を
『ACE (Act and Communicate in English)』
にリニューアルいたしました。
これまで通り、充実した内容をお届けしてまいります。
変わらぬご愛顧のほど
よろしくお願い申し上げます。

# 三省堂教科書・教材サイト https://tb.sanseido.co.jp

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町 2-22-14 TEL(O3)3230-9411(編集)・9412(営業)

●大阪支社 〒 530-0002 大阪市北区曾根崎新地 2-5-3 TEL (06) 6341-2177

●名古屋支社 〒 460-0002 名古屋市中区丸の内 3-21-31 協和丸の内ビル 2F TEL (052) 953-9211

●九州支社 〒 810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 TEL(092)531-1531

●札幌営業所 〒 060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15 ビル 3F TEL(011) 616-8722

